

人生100歳時代の
設計図を考える

第1回かながわ人生100歳時代ネットワーク会議



【第2部会】 2019活動計画・報告 生涯現役マルチライフ推進プロジェクト

Gerontology
Gerontology

2019年11月1日

第2部会：前田展弘

(ニッセイ基礎研究所／東京大学高齢社会総合研究機構)



1. これまでの経緯 (2017-18)

1. WG2 検討経緯 (取組方向・テーマ)

2017

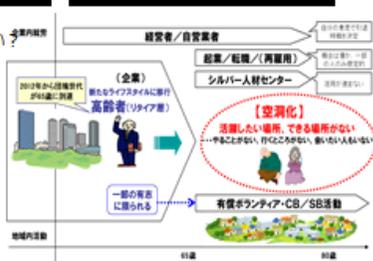


人生100歳時代のロールモデルの不在⇒ 人生100歳の生き方、働き方、活躍の仕方？

若者の将来不安～生き抜く方策？

- ✓ 人生100年…全く想像できない？
- ✓ 仕事に対する考えは多様化
1つの仕事だけに捉われていない
複数の名刺、副業も
早期退職が多い、やりがい重視
会社に縛られていない
- ✓ 貢献したいが、自信がない
意見のぶつけ合いは少ない
チャレンジ意欲は低い？

セカンドライフの空洞化問題



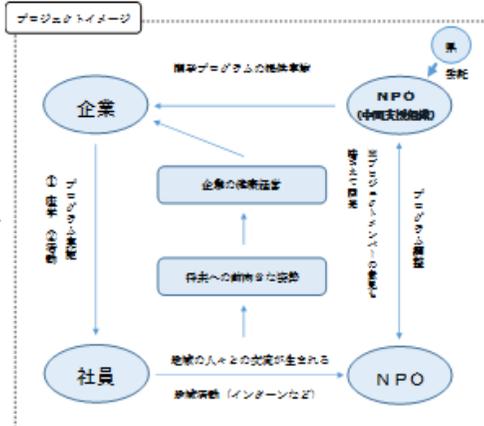
2018

「生涯現役マルチライフ推進プロジェクト」(①全体イメージ)

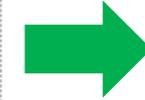
目的 企業の社員が定年後のセカンドキャリアを具体的にイメージすることができる研修プログラムを実施し、現役世代からの社会参加促進を目指す。

概要

- ✓ 県がNPOに業務委託し研修プログラムを開発し企業で実施
- ✓ プログラムの内容は、座学とボランティアやNPO活動等の体験やインターンを盛り込む予定（プロジェクトメンバーの意見も踏まえて）
- ✓ 参加者は希望制で募集
- ✓ 実施前と後にアンケート調査を行い、意識変化を確認



※神奈川県庁作成資料

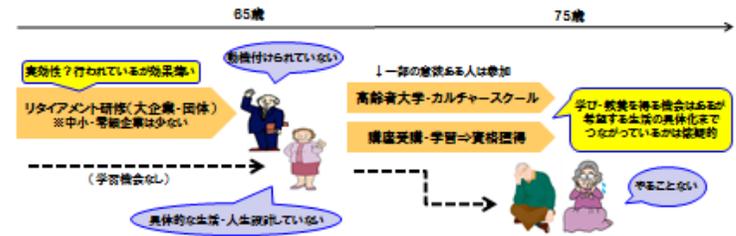


セカンドライフの空洞化問題

後半人生ライフデザイン研修のあり方の検討

「定年予備校(仮称)」創設に向けて

※2014年度@東京大学産学連携研究グループ内検討資料をもとに



3. 2018年度活動概要

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体会議					9/3						3/15
第2PJ					9/27						
県委託事業	企業探し⇒委託準備⇒委託手続				研修準備	企業研修等実施		企業履回り			

	全体説明会	活動団体 紹介セミナー	【体験】 ボランティア活動
①協力企業O社	10/30 (2回) 78名		- 6名
②協力企業A社	10/31, 11/7 86名	11/28 15名	- 1名

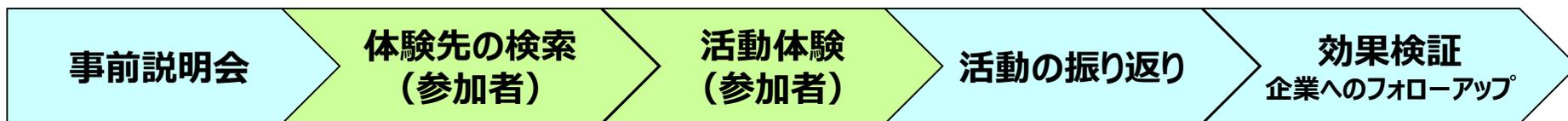
2. 2019年度計画&報告

県委託事業

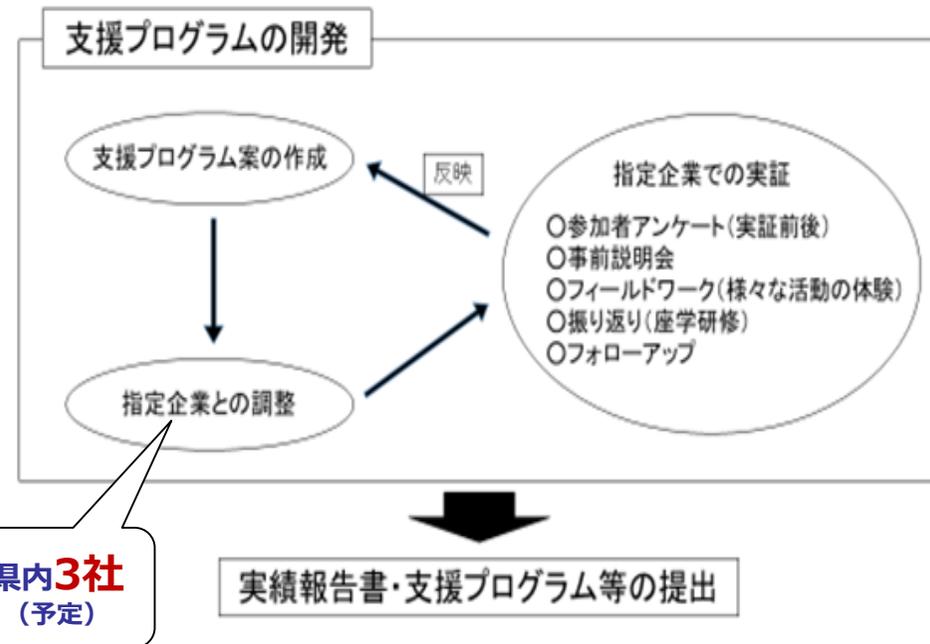
「生涯現役マルチライフ推進」支援プログラム開発

個人が企業で働いている現役世代の間から、前向きに生き生きと地域社会の中で活動できるよう、様々な人生設計について考える「きっかけ」を与えることを目的とした新たな「研修プログラム」を開発し、実施する。

<支援プログラムの構成（実施フロー）>



<https://jp.techcrunch.com/2019/02/07/peatix-jtb/>

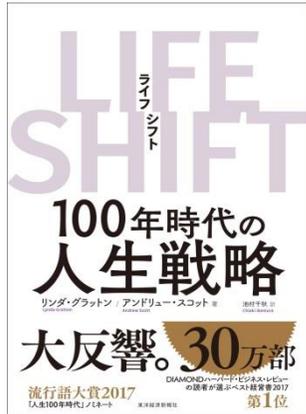


3. 残された検討課題

人生100歳時代

「生涯現役マルチライフ」実現に向けた議論は加速！

【生涯現役】・・・「職業寿命」「社会活動寿命」「健康寿命」「資産寿命」を如何に延ばせていけるか！（概念は拡大）



「人生100歳時代構想会議」の目的と主要テーマ
平成29年9月11日
人生100歳時代構想推進室

- ◇日本は、健康寿命が世界一の長寿社会を迎えている。海外の研究（リンダ・グラットン著『ライフシフト』）で引用されている研究を元には、2007年に日本で生まれた子供については、107歳まで生きる確率が50%もある。この日本で、超長寿社会の新しいロールモデルを構築する取組を始めたい。
- ◇こうした超長寿社会において、人々がどのように活力をもって時代を生き抜いていくか、そのための経済・社会システムはどうあるべきなのか。それこそが、「人づくり」の要諦である。
- ◇こうした社会システムを実現するため、政府が今後4年間にわたって実施するべき政策を議論したのが「人生100歳時代構想会議」。

- 人生100歳時代構想会議の主要テーマ
- ① 全ての人に開かれた教育機会の確保、負担軽減、フレックシブル教育
 - ② これらの課題に対応した高等教育改革*
※大学にしても、これまでの若い学生を対象にしたものではない。
 - ③ 新卒一括採用だけでなく企業の人材採用の多元化
※これが有能な人材確保のカギであり、企業にしてもこれまでの新卒一括採用だけではやっていけない。

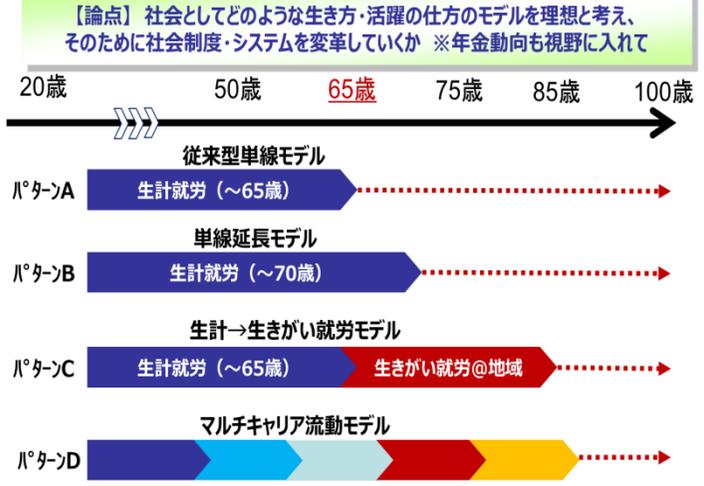
3ステージ⇒マルチステージの人生へ
3年以内に中間報告をとりまとめ、政策パッケージも盛り込んだ基本構想を、来年前半には打ち出す。

年金将来不安根強く 老後200万円金融庁撤回へ

金融庁がまとめた報告書を通る経緯

- 5月22日 金融審議会が報告書を発表し、老後に200万円が必要との試算を提示。公的年金については「中長期的に実質的な低下が見込まれている」と表記
- 6月3日 批判を受けて書きおろしを修正した上で報告書を取り、金融庁が「今後調整されていくことが見込まれている」と修正
- 7日 厚生労働大臣が「あともう少しになるような表現は不適切だった」と説明
- 10日 安倍首相が「不正確であり誤解を生かすものだった」と批判。野党が協議
- 11日 厚生労働大臣が「正式な報告書として受け取らない」と表明。事実上の撤回へ

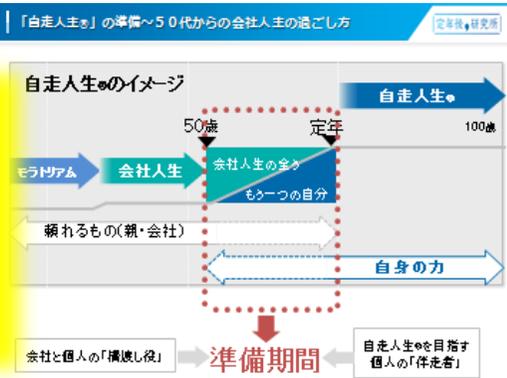
金融庁は、従来の「公的年金は老後の生活費の約3割を賄う」という前提を撤回し、老後の生活費の約5割を賄う必要があると試算。また、公的年金の給付額は、2025年度から段階的に削減される見込み。このため、老後の生活費の約5割を賄うためには、老後の収入を200万円程度確保する必要があると試算した。



生涯現役促進地域連携事業 地域マップ

2019/9現在 (25都道府県・37市区町村)

■ 「定年予備校」コンセプトの具体化・実装化
 ■ 「セカンド小学校構想（仮称：第2義務教育・社会参加支援策）」など
マルチライフ実現を支える仕組み・事業の考案及び社会実装



1. 目的

人生100歳時代においては、50歳からの後半人生を如何に充実させることができるか、一人ひとりの人生の質を左右する重要な課題である。書籍「ライフシフト」の中でも指摘されているように、人生100歳時代の人生は、「教育⇒仕事⇒引退」という単一的な3ステージモデルではなく、複数のキャリアを積み重ねられる「マルチステージモデル」が理想である。そのためには、マルチステージの選択肢を知ると同時にチャレンジする方法をより具体的に知る（体感する）ことが求められる。しかしながら、そのようなキャリアパス支援を行う社会教育、企業内研修は見当たらない。そこで本プロジェクトでは、多くの人が人生100歳時代において本人が望む「マルチステージ」を実現できるような新たな研修事業を構築することを目的とする。

2. 実施対象及び受講者対象

(1) 本プロジェクトの趣旨に賛同する**特定企業**（一定の従業員規模のある**大企業**を想定）

- ✓ 福利厚生あるいは健康経営の一環として、従来の企業ない研修（ライフプラン研修を変更）を見直す形で実施
- ✓ 受講対象者は50～64歳
- ✓ 費用は企業負担

(2) 本プロジェクトの趣旨に賛同する**自治体**（**住民及び中小零細企業**の従業員をカバー）

- ✓ 特定のエリアごとに参加者を募集する形で実施
- ✓ 受講対象者は50～64歳
- ✓ 費用は参加者負担（自治体から補助が出せればbetter）

3. 内容・特徴

(1) 座学 (10時間)

- ①総論 : 人生100歳時代と後半人生
- ②基礎知識 : セカンドライフに必要な基礎情報
- ③マルチステージの選択肢
※どれだけの選択肢があるのか可視化

↓

(2) 演習 (2時間)

- ④自己棚卸し : 自分の能力・価値とニーズを再確認
- ⑤ワークショップ : グループワークで気づきあう

↓

(3) マルチステージコース別キャリア移行研修

コース別の研修 (座学)、スキル養成、インターン、見学など

地域密着型！

- 定年予備校の最大の特徴は、「マルチステージ」の選択肢を知れること、またそのステージに移行するために必要なノウハウやスキルを体験できることにある。
- マルチステージは、「起業する」、「自宅で働く」、「NPOや社団を立ち上げる」、「協同労働に参加する」、「海外で活動する」といった“働き方”に関すること、
- 「農業を始めたい」、「介護の仕事をしたい」、「子育て関係 (学童保育含む) に携わりたい」、「観光ガイドになりたい」、「若手経営者の経営支援をしたい」、「英語を活かしたい」、「WEB関係で何かしたい」など、ジャンル別の新たにチャレンジしたいニーズから、ステージが極めて多様になる。
- これらを整理・可視化すること、そしてそのステージへの円滑な移行方法を築くことが必要であり、それがコアコンピテンスになる。



Gerontology **Gerontology**



2019年11月1日

第2部会：前田展弘

(ニッセイ基礎研究所／東京大学高齢社会総合研究機構)